



17年の時を超えて

日曜日は、講演会で呼ばれて奈良県に行っておりました。

奈良県に行くのはこの8月だけで2回目です。

今月の初めに奈良県で講演会を依頼されてから、その翌日は沖縄県へ飛びそちらでも1時間半ほどの講演、その次は神奈川県、香川県、そして愛知県に戻ってきてからも名古屋で講演を行い、そしてまた今回2回目の奈良県での講演、その次は東京、さらに北海道の千歳市、函館市と繋がってこの夏の講演ロードが終了する予定です。

この1か月間だけでもおよそ2000人の方々にお話をする機会をいただけてきたわけですが、この日曜日に衝撃的なことが起こりました。

講演会を終え、その会場を出たところで一人の青年が笑顔で駆け寄ってきました。

「渡辺先生、お久しぶりです！僕のこと覚えてますか？小学校2年生の時に1回だけ担任してもらったんですけど…」

全身に泡立つ感覚がありました。

奈良県の地で「2年生の時に担任してもらった」と言えば、“あの年”しかありません。

それは、私が教師になった1年目のこと。

23歳の時に担任した学級です。

クラスの子たちは8歳。

それからすでに17年もの歳月が流れています。

目の前の爽やかな青年は、すでに25歳になっているということです。

でも本当に不思議なもので、17年もの歳月は一気にさかのぼることが可能

でした。

私は間髪入れずに青年に答えました。

「慎樹か！！！」

私は、17年ぶりにその子の名前を呼びました。

2年生で私が担任した翌年に彼は転校していったため、その後どんなふうに暮らしているかがすごく気になっていたのです。

ガッチリ握手を交わして、近況を尋ねてみました。

「今年の春、大学院を卒業して奈良県で先生になりました。」

「今、初めての担任をしています。」

「本当に仕事が楽しいです。」

再会してからものの数分で次々と明らかになる衝撃の事実。

彼はなんと、私の主宰するセミナーにもオンラインで参加してくれていたとのことでした。

私の本も買ってくれていました。

そして、何より驚いたのが、

「先生の学級通信、今もちゃんと持っています」

との一言でした。

17年も前に書いた学級通信を、25歳になった今でも大切に持っていているとのこと。

思わず目頭が熱くなりました。

当時、担任した時の私の年齢を既に超えた彼は、立派に成長していました。

そこから、思い出話に花を咲かせながら、彼と乾杯をしました。

感激と感動がぎっしりつまった乾杯でした。

不意に、神様に「ありがとうございます」と祈りたくなるくらいの幸せを感じたひと時でした。

いつか、成長して大人になった4-1のみんなともこんな日が来るのかもしれないね。

大人になったみんなは、どんな話を聞かせてくれるのでしょうか。

その日が来るのが、今から本当に楽しみです。

☆ ↓ 読者ページはこちらから ↓ ☆ ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcipcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

